

あいむほーむ再生

ニュージーランドで、有機生活庵「あいむほーむ」というB&Bを運営し、有機生活の提言をしてきました。30年間の移住生活を終え、日本に戻った今、あいむほーむの再生を考えています。

1. これからの世の中

これからの世の中が、どういう方向に進んでいくか、考察をしてみたいと思います。

私たちが、ニュージーランドに移住をした1991年の前年、日本のバブル経済は、大きな音を立てて崩れ落ちました。その後、30年以上経った今も、立ち直りは見られません。代わりに、中国やニュージーランドは、大きく発展？（経済的に）し、やがて近いうちに、かつての日本と同じように、大きな崩壊を迎えます。バブルというのは、見せかけの発展だからです。

その後の世界は、どうなるかは、大体の予想がつきます。それは、AIとデジタル技術を駆使した、総合管理社会が来るということです。私たちがニュージーランドに移住をした30年前には、まだ、インターネットもケータイもありませんでした。たった30年の間に、手にある端末で、テレビが見られるようになり、小さな子供までが、友達と声のない会話をするようになりました。これからの30年は、おそらく想像もつかないスピードで変化を経験することになると思います。

AIの出現は、人間の働き方を大きく変えるでしょう。デジタル技術は、私たちに莫大な利便性を与えると共に、自由を奪っていくかも知れません。人々の人格も大きく変わる可能性があります。経済格差は、さらに広がり、人間同士の分離も増大するでしょう。孤立化が増えます。病気や精神障害も増え、障害者の誕生も増えるでしょう。

そういう世の中になった時、一番大切なことは、私たちが、コンピュータ（情報）に操られる

のではなく、もう一度、「人間らしい」生活を取り戻すことではないかと思うのです。

2. コモンの再生

コモンの再生は、新しい「あいむほーむ」構築のテーマにしたいと考えているキーワードで、内田樹氏の著書のタイトルです。趣旨を簡単にまとめるとこういうことではないかと思えます。

人間は、かつて、共同生活をしていました。例えば縄文時代、人間は、個々の家族の家を持っていましたが、村の生活は、狩猟を共にしたり、共同作業で作物を育てたり、炊事やその他の作業も共同でしていたと考えられます。つまり、共同の生活・暮らし（コモン）があったということです。ところがある日、人間は、「囲い込み」という作業で、自分の土地の「所有」を主張し始めます。その後は、その「所有」を求めて、陣取り合戦が始まり、結果、世界の数%の人間が、残りの人間の全ての資産と同じだけを所有し、その人たちが、世界中を支配するという構造が出来上がりました。

A Iやインターネットによる情報管理社会が進むと、人々の孤立がますます進み、閉塞感が大きくなります。そう言う時代に、私たちが人間らしく生きるために最も必要であるのは、私たち人間同士の結びつきを取り戻すことではないかと思うのです。それが、「コモンの再生」の意味でもあります。

3. 有機生活庵「あいむほーむ」での体験

私たちは、ニュージーランドに30年暮らし、その間にさまざまな体験をしましたが、特に最後の10年間は、とても有意義な体験をしたと感じています。有機生活庵「あいむほーむ」というB&Bを運営しながら、「有機生活楽習宿」というプログラムを通じて、多くの日本からの若者と語り合い、コミュニティの色彩の強い、地元からは、人間の結びつきの重要性を多く

学びました。

ニュージーランドという海外から日本を眺めることで、昭和を終え、変わっていく日本の姿も見えてきました。また、日本という国を世界から見るという俯瞰ができたのも、ニュージーランドという世界からちょっと距離のあった環境も大きかったのではないかと思います。

有機生活庵「あいむほーむ」では、家の周りにフードフォレスト的な庭を作ることで、健康野菜の自給もし、味噌づくりやビール作りを始めとするホームメイドもいろいろ体験しました。しかし、一番大きかったのは、モトウエカという町の郊外、モトウエカ・バレーというニュージーランドでも特殊な場所で生活をしたという経験ではないかと思います。そこは、歴史的にも「コミュニティ」が多く実在し、ヨーロッパを中心とする世界の各地から、オルタナティブなライフスタイルを求めて集まった人たちが多く暮らしていたところでした。ある意味で、これからの時代を意識した生き方・暮らし方を実践していた人が多かったところではないかと思います。

新しいプロジェクトでは、私たちのこれらの体験をフルに活かした内容にしていきたいと思っています。



4. ニュージーランドからの帰還

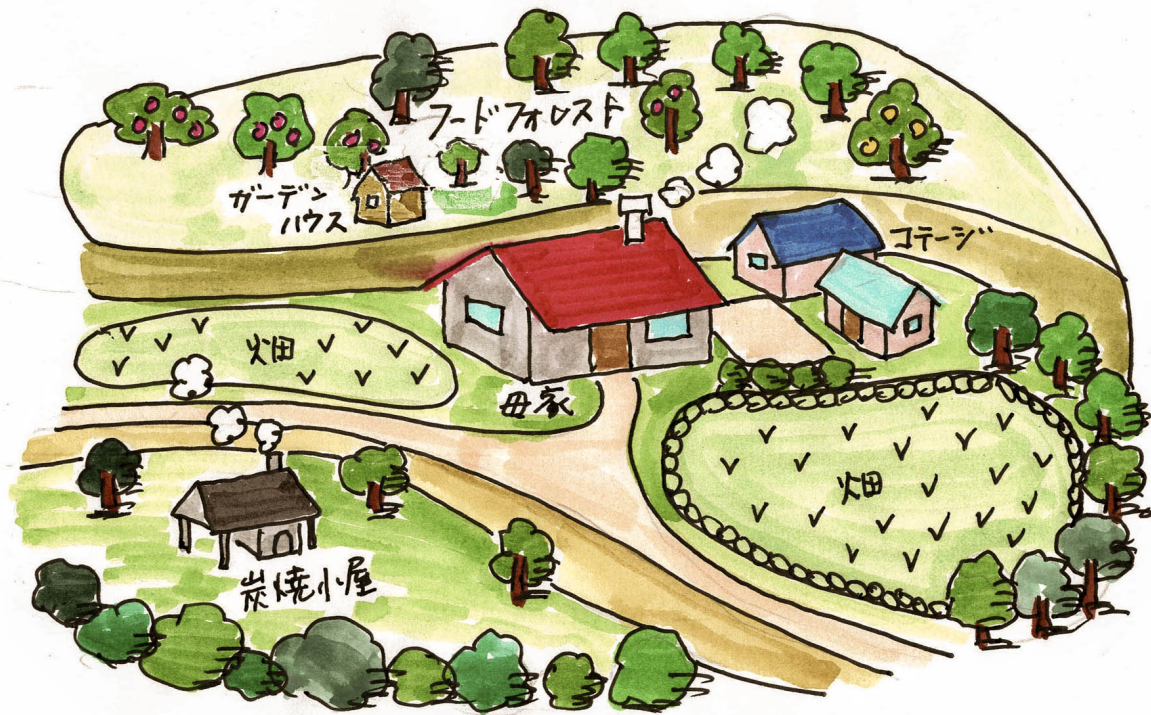
今回、とある事情で、ニュージーランド脱出を考え、日本に帰国を決断したのですが、日本でやりたいと考えていることがあります。

2021年の末、私たちは、突如ニュージーランド脱出を思い立ち、1ヶ月余りの短期間に日本に帰還しました。コロナをきっかけに、ニュージーランドの政治が危険な方向に進んでいると感じたことがきっかけですが、その背後には、今までの体験をもとに、日本でやってみたいとの考えがあったのも事実です。ニュージーランドの有機生活庵「あいむほーむ」では、有機生活楽習宿というプログラムを通じて、日本から来ていた若い人たちに、さまざまな情報交換と啓蒙をおこなっていました。健康のこと、ライフスタイル（生き方・暮らし方）のこと、医・食・住のこと、精神性（スピリチュアリティ）のこと、世界の構図や歴史について、ものの考え方や自然の真理など、幅広い分野について話し合いました。もし、そういうことを日本でするなら、より多くの若い人たちに機会を与えることができるかも知れません。

また、ニュージーランドで学んだ「コミュニティ」的な暮らしは、これからの日本にとっても、とても重要な考えです。それらを組み合わせることで、「コモンの再生」のショールームができるのではないかと、それが、ニュージーランドから日本に帰還したことの目標です。

5. あいむほーむ再生プロジェクトの概要

では、具体的に、どのようなものを構築しようと考えているか、現時点でのラフなデザインを書いてみます。私たちの住居は、同時に「コモン」を実現する場として利用し、それを取り巻くフードフォレストや自家菜園、ゲストルーム、そこで働く人たちのコテージなどが、有機的に結びついた「小さな村」と言えばわかりますでしょうか。個々について、少し説明を加えます。



フード・フォレスト

フードフォレストは、果物の木や自家菜園、ハーブ園など、食べられるもので庭づくりをする「エディブルガーデン」の大型版です。木の下に日陰を好む植物を植えたり、パーマカルチャー的なデザインを取れることも必要です。日本では、山菜をはじめ、野生の食用植物もたくさんあります。食用に限らず、生活の衣食住に役立つ植物も取り入れたいと考えています。落葉樹などが、土地を肥沃にすることに役立ちます。動物を組み合わせる（例えば鶏など）ことも可能です。見るための庭ではなく、暮らしに密着した庭と言えます。計画では、土地全体をフードフォレストとして開発したいと考えています。

母家

母家は、私たちオーナーの住居であると同時に、いろいろなコモン体験のための場、ワークショップや「共食」に利用することを考えています。これからの有機的な暮らしに欠かせない「共感」を作るために、どのようなアクティビティが有効か、模索していく予定です。また、

あいむほーむ全体を、これからの暮らしを模索する上での試験的ショールームの役割も持たせたいと考えています。

宿泊施設

母家と別棟のコテージが二つあり、一つは、ウーファーさんなど働く人たちのための宿泊施設、もう一つは、ここを訪れていただく人たちのためのゲストルームとして考えています。

炭焼き小屋

ニュージーランドでもやっていた経験を活かして、竹炭の生産もする予定です。竹炭や竹酢を暮らしに活用するノウハウも伝えていきたいと思います。薪や炭のある暮らしも目指します。

ガーデンハウス

以前にも作ったガーデンハウスは、今回も予定していて、私たちの瞑想場として利用することを考えています。

実現のためのステップ

(1) ウーフと勉強会による開発

最初の1、2年は、プロジェクトに必要な用地の開発。特に、建屋の建築とフードフォレストの開発です。ウーフ(WWOOF)というエクスチェンジを利用して、若い人たちに開発を助けてほしいと考えています。ただし、単なるウーフではなく、有機生活庵「あいむほーむ」での経験を活かし、「有機生活楽習宿」の内容を再現したいと思います。

(2) 「コモンの再生」の立ち上げ

ある程度、プロジェクトの場が開発できた段階で、あいむほーむの施設を活用して、「コモンの再生」プログラムを開発していきます。主なテーマは、「共食と共存共有」です。このプロジェクトに興味を持つ若者や地元民、海外体験者などを中心に、食事を共にしたり、有機生活に必要な知識や製品をシェア（共有）できる、ワークショップや

交歓会などを実施します。有機農業も、大きなテーマの一つです。

(3) 有機生活庵「あいむほーむ」再生の目標

プロジェクトが立ち上がれば、より内容を充実できるような幅を広げていきたいと思えます。あいむほーむで実践する暮らしが、有機生活のモデルとなれるよう、さまざまなアイデアを導入していきたいと思っています。日本伝統文化や古き良きものを見直し、自然を大切にする循環型の暮らし、炭と薪のある暮らし、バイオトイレ、健康と幸せを招く暮らし、等々。

6. あいむほーむの建設予定地

このプロジェクトを実現するための場所を探していましたが、現在、徳島県佐那河内村にある農地の確保を進めています。土地を選ぶに当たって、次のような点を検討してきました。

農業との共存が可能な土地であること

村が、「有機生活」を大切に考えていること

外人や海外体験の若い人たちが興味を持つ（または持っている）場所であること

フードフォレストができる広い土地があること（野菜や樹木を育てやすい気候・地形）

都市へのアクセスも適度にあること

村の方向として、このプロジェクトに興味を持ってもらえるところ

このプロジェクトを支えてくれる地元民がいれば理想

7. 新生あいむほーむの周りに集まってくれるといいなと思うもの。

海外からの移住者または海外経験のある日本人

ものづくりが好きな人たち、コモンを盛り立ててくれる若者

有機農業、など



ニュージーランドあいむほーむでのフードフォレスト例